

”巨峰”（ブドウ）の無核果に対するジベレリン処理 技術の導入試験

中川, 幸夫
九州大学農学部

花田, 信章
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/14163>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 6, pp.15-16, 1982-06. University Farm, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



“巨峰”（ブドウ）の無核果に対する ジベレリン処理技術の導入試験

中川幸夫・花田信章

“巨峰”は、花振性が強く、花振いのひどい時は果粒を全くつけず、軽度の時は無核果粒として着生する。無核果粒は肥大が悪く、そのままでは商品性がない。このため、これにジベレリンを処理して肥大を促す技術がある。⁽¹⁾

当果樹園においても、無核果粒の着生が多くみられるため、ひとつの解決策として上の技術を取り入れることを考え、このための予備試験を行なった。

材料および方法

当篠栗果樹園において、6年生の“巨峰”および“ピオーネ”を用い、処理は昭和55年6月22日、100 ppm のジベレリンに果房を浸漬することにより行なった。試験区は下のとおりで、1区あたり5果房を用いた。

試験区 1. 無核果・処理区；無核果粒の着生した果房にジベレリン処理したもの。

2. 無核果・無処理区；無核果粒の着生した果房で、無処理のもの。

3. 有核果・無処理区；正常に核を有する果粒の着生した果房。

調査は8月12日と9月10日の2回に分けて行ない、果粒の縦径、横径、粒重、屈折計示度（糖度）および滴定酸度を調べた。

結果および考察

調査結果は第1表に一括して示した。表によると“巨峰”および“ピオーネ”ともジベレリン処理区は、有核果・無処理区にはおよばないが、無核果・無処理区に比べると明らかに大きさ、重量とも大きくなっており、粒の形状も有核果により近い形状を示した。また、糖・酸度には各区に目立った差はみられなかった。

以上の結果から、ジベレリン処理は無核果の多発した場合、非常手段として有効であると思われるが、処理時期、処理の省力技術について、特に処理濃度はもっとうすくしても有効であるとの記述⁽¹⁾があるので、今後検討してみる必要があろう。

文 献

1. 望月太ら，1981 ジベレリン処理栽培。“農林技術大系・果樹編2”，171～204.

第1表 “巨峰”および“ピオーネ”の果粒の径と重量および果汁の
糖・酸度におよぼすジベレリン処理の影響

品 種	調 査 日	処 理 区	果			粒 重	果 汁	
			縦 径	横 径	縦横比		糖 度	酸 度
巨 峰	8 月12日	無核果・処 理	25.2 ^{mm}	25.2 ^{mm}	1.00	9.50 ^g	15.5	0.55
		無核果・無処理	22.3	23.2	0.96	7.38	17.5	0.56
		有核果・無処理	29.9	28.3	1.06	13.50	16.0	0.53
	9 月10日	無核果・処 理	26.9	26.1	1.03	10.41	16.8	0.56
		無核果・無処理	21.1	22.0	0.96	6.05	16.4	0.57
		有核果・無処理	31.5	28.5	1.11	14.98	16.1	0.51
ピ オ ー ネ	8 月12日	無核果・処 理	24.5	25.1	0.98	9.32	14.4	0.53
		無核果・無処理	21.3	21.8	0.98	6.06	14.0	0.75
	9 月10日	無核果・処 理	24.7	24.6	1.00	8.90	15.6	0.48
		無核果・無処理	20.9	21.3	0.98	5.50	15.1	0.51
		有核果・無処理	27.2	27.8	0.98	15.01	14.6	0.57